

平成 30 年度「愛知県内のブラジル人学校に対する調査」について
の報告（詳細）

1 調査概要

目 的：愛知県内のブラジル人学校に通う子どもたちの在籍状況の把握

調査時点：平成 30 年 5 月 1 日

調査方法：平成 30 年 5～7 月に各学校へ調査票を送付して実施

また、直接訪問し、ヒアリング調査を実施

平成 30 年 5 月 1 日現在、愛知県内に 12 校のブラジル人学校の所在を確認しており、1,201 人の生徒（内 676 人が義務教育年齢）がブラジル人学校に在籍している。

〈調査学校一覧〉

学校名	所在地
伯人学校イーエーエス豊橋	豊橋市
伯人学校イーエーエス豊田	豊田市
伯人学校イーエーエス碧南	碧南市
学校法人カンティニーニョ学園	豊橋市
エスコーラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス	碧南市
エスコーラ・ネクター	豊田市
エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	瀬戸市
エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	豊田市
エスコーラ・サンパウロ・インターナショナル	安城市
エスコーラ・エスプレッサオン	半田市
カンティニーニョ・ダ・チーア・シェシェラ	岡崎市
コレジオ・イ・クレシェ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカショナル	稲沢市

2 アンケート調査

(1) アンケート調査について

ア 目的

本調査は、愛知県に所在が確認されているブラジル人学校の現状を把握し、それぞれの教育課程（就学前、基礎、中等）に就学している子どもの人数を把握することを目的としている。

イ 調査期間

平成 30 年 5 月 1 日～平成 30 年 7 月 1 日

ウ 調査対象者

愛知県内に住所を有し、愛知県が所在の確認をしているブラジル人学校

エ 調査方法

平成 30 年 5 月 1 日以降からアンケート調査協力依頼をそれぞれのブラジル人学校宛てに郵送し、さらに、ヒアリング調査時に提出を依頼した。

オ 回収状況

回収数 12 校／12 校 回収率 100%

(2) 集計結果

Q 1. 提供している課程は何ですか。

No.	学校名	就学前	基礎	中等
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○	○	○
2	伯人学校イーエーエス豊田	○	○	○
3	伯人学校イーエーエス碧南	○	○	○
4	学校法人カンティーニョ学園	○	○	○
5	エスコラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス※	○	○	
6	エスコラ・ネクター	○	○	○
7	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○	○
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ	○	○	
9	エスコラ・サンパウロ・インターナショナル	○	○	○
10	エスコラ・エスプレッサオン	○	○	
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	○		
12	コレージョ・イ・クレシエ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカシヨナル	○	○	

Q 2. 生徒の人数は何人ですか。

No.	学校名	就学前	基礎	中等
1	伯人学校イーエーエス豊橋	14	119	65
2	伯人学校イーエーエス豊田	4	131	93
3	伯人学校イーエーエス碧南	14	181	105
4	学校法人カンティーニョ学園	14	118	33
5	エスコラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス※	41	20	0
6	エスコラ・ネクター	3	6	5
7	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	5	7	5
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ	19	35	0
9	エスコラ・サンパウロ・インターナショナル	14	48	18
10	エスコラ・エスプレッサオン	23	7	0
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	46	0	0
12	コレージョ・イ・クレシエ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカシヨナル	4	4	0
小計		201	676	324
合計		1,201		

※ 小学校5年生までの受け入れ

Q 3. 子どもの国籍を教えてください。

No.	学校名	子供の国籍				
		ブラジル	ペルー	フィリピン	日本	コロンビア
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○				
2	伯人学校イーエーエス豊田	○				
3	伯人学校イーエーエス碧南	○				
4	学校法人カンティーニョ学園	○				○
5	エスコラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス	○				
6	エスコラ・ネクター	○				
7	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○	○		
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ	○				
9	エスコラ・サンパウロ・インターナショナル	○			○	
10	エスコラ・エスプレッサン	○				
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	○		○	○	
12	コレジオ・イ・クレシェ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカショナル	○	○			
計		12	2	2	2	1

Q 4. 学校には主に何語を使っていますか。

No.	学校名	学校で主として使用する言語					
		ポルトガル語	スペイン語	フィリピン語	日本語	英語	ロシア語
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○			○	○	
2	伯人学校イーエーエス豊田	○			○	○	
3	伯人学校イーエーエス碧南	○			○	○	
4	学校法人カンティーニョ学園	○					
5	エスコラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス	○					
6	エスコラ・ネクター	○			○	○	
7	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○			○	○	
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ	○					
9	エスコラ・サンパウロ・インターナショナル	○	○		○	○	○
10	エスコラ・エスプレッサン	○			○		
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	○					
12	コレジオ・イ・クレシェ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカショナル	○	○		○		
計		12	2	0	8	6	1

Q 5. 日本語の授業は週に何時間ですか。

No.	学校名	時間／週					
		小 1	小 2 ～ 3	小 4 ～ 5	小 6 ～ 中 3	高 1 ～ 2	個別指導
1	伯人学校イーエーエス豊橋	1h	4h	4h	1h	1h	6h
2	伯人学校イーエーエス豊田	1h30min	2h30min	3h	1h30min	45min	6h
3	伯人学校イーエーエス碧南	1h	4h	4h	1h	1h	6h
4	学校法人カンティーニョ学園	45min					
5	エスコーラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス	9h					
6	エスコーラ・ネクター	10h					
7	エスコーラ・パウロフレイレ瀬戸	6h					
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	1h					
9	エスコーラ・サンパウロ・インターナショナル	3h					
10	エスコーラ・エスプレッサオン	12h					
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシェラ	0h					
12	コレージョ・イ・クレシェ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカシヨナル	4h					

Q 6. 使用している教材について

No.	学校名	教材
1	伯人学校イーエーエス豊橋	にほんごではなそう（2～5年生）（EAS）、みえこさんのにほんご（三重県国際交流財団）、みんなの日本語（スリーエーネットワーク）
2	伯人学校イーエーエス豊田	にほんごではなそう（2～5年生）（EAS）、まるごとにはほんご入門理解、まるごとにはほんご入門活動
3	伯人学校イーエーエス碧南	にほんごではなそう（2～5年生）（EAS）、みえこさんのにほんご（三重県国際交流財団）、みんなの日本語（スリーエーネットワーク）
4	学校法人カンティーニョ学園	ひろこさんのたのしいにほんご（4,5年生）（凡人社）、みんなの日本語 1（6～9年生）（スリーエーネットワーク）、ちくドリルはじめてのおけいことば（幼～1年生）（小学館）
5	エスコーラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス	にほんごではなそう（EAS）、みえこさんのにほんご（三重県国際交流財団）、ひらがなことば（学研）
6	エスコーラ・ネクター	AIA やさしい日本語
7	エスコーラ・パウロ・フレイレ瀬戸	こくご 1～3 上・下、国語 4・5・6 年（光村図書）、小学校 1 年 2 年 3 年 漢字（東京外語大学サイト）、教科書に合わせた読解教材カード等（自作）
8	エスコーラ・ピンタンド・オ・セテ	
9	エスコーラ・サンパウロ・インターナショナル	こどものにほんご 1、2（スリーエーネットワーク）
10	エスコーラ・エスプレッサオン	AIA、EAS/KUMON
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシェラ	
12	コレージョ・イ・クレシェ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカシヨナル	みんなの日本語（スリーエーネットワーク）、1 日 15 分（アルク）

Q 7. 学校の経営状況について去年と比べてどう変化しましたか（回答は1つ）

No.	学校名	さらに悪くなっている	去年と同じくらい厳しい状況	去年より良くなっているが、まだ厳しい状況	去年と変わらず、特に問題ない	去年より回復している
1	伯人学校イーエーエス豊橋			○		
2	伯人学校イーエーエス豊田			○		
3	伯人学校イーエーエス碧南			○		
4	学校法人カンティニーニョ学園			○		
5	エスコラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス		○			
6	エスコラ・ネクター					○
7	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸		○			
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ			○		
9	エスコラ・サンパウロ・インターナショナル					○
10	エスコラ・エスプレッサオン	○				
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェシェラ			○		
12	コレージョ・イ・クレシェ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカシヨナル	○				
計		2	2	6	0	2

Q 8. ブラジル人学校の役割をどのように考えていますか。(複数回答可)

No.	学校名	母国の文化や言語を教える	子どもが母国に帰国した時のため、母国の学校で勉強についていけるよう指導する	子どもが日本の学校に入学したときのため、日本の学校で勉強についていけるように指導する	日本の学校で外国人児童生徒の受け入れ体制が不十分な部分を補う	その他意見
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○				
2	伯人学校イーエーエス豊田	○	○	○		
3	伯人学校イーエーエス碧南	○	○	○		
4	学校法人カンティーニョ学園	○	○			
5	エスコラ・セメンティーニャ・デ・ジェズス	○	○			
6	エスコラ・ネクター	○	○	○	○	
7	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸	○	○	○		
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ	○	○			
9	エスコラ・サンパウロ・インターナショナル	○	○		○	
10	エスコラ・エスプレッサン	○	○	○		
11	カンティーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	○	○	○	○	
12	コレージョ・イ・クレシエ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカシヨナル	○	○		○	
計		12	11	6	4	0

Q 9. 子どもへの健康診断を実施していますか。また実施している場合は、検査項目は何ですか。

No.	学校名	未実施	身長・ 体重	栄養状態	背骨・胸 の骨格の 病気が及 び異常の有 無	視力・聴 力	目の病気 及び異常 の有無	顔・耳・ 鼻・口・ 喉・皮膚 の病気	歯・口腔 の病気及 び異常の 有無	結核の有 無	心臓の病 気及び異 常の有無	尿	その他
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○											
2	伯人学校イーエーエス豊田		○	○							○		血圧、足 の骨
3	伯人学校イーエーエス碧南	○											
4	学校法人カンティニーニョ学園		○		○	○	○	○			○	○	
5	エスコラ・セメンティーニャ・デ・ジェズ	○											
6	エスコラ・ネクター		○	○		○	○	○	○			○	
7	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸		○										
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ		○			○			○	○	○	○	
9	エスコラ・サンパウロ・インターナショナル	○											
10	エスコラ・エスプレッサン		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェシエラ		○	○		○	○	○					
12	コレジオ・イ・クレシエ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカショナル		○	○		○	○	○	○				
計		4	8	5	2	6	5	5	4	2	4	3	1

Q 10. 職員への健康診断を実施していますか。また実施している場合、検査項目はなんですか。

No.	学校名	未実施	身長・体 重・腹囲	視力・聴 力	結核の有 無	血圧	尿	胃の病気 及び異常 の有無	貧血検査	肝機能検 査	血中脂質 検査	血糖検査	心電図	その他
1	伯人学校イーエーエス豊橋	○												
2	伯人学校イーエーエス豊田	○												
3	伯人学校イーエーエス碧南	○												
4	学校法人カンティニーニョ学園		○	○		○	○		○	○	○	○	○	
5	エスコラ・セメンティーニャ・デ・ジェズ	○												
6	エスコラ・ネクター		○	○		○	○		○		○	○		
7	エスコラ・パウロ・フレイレ瀬戸		○											
8	エスコラ・ピンタンド・オ・セテ	○												
9	エスコラ・サンパウロ・インターナショナル	○												
10	エスコラ・エスプレッサン	○												
11	カンティニーニョ・ダ・チーア・シェシエラ	○												
12	コレジオ・イ・クレシエ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカショナル		○	○										
計		8	4	3	0	2	2	0	2	1	2	2	1	0

3 ヒアリング調査

ア 目的

本調査は、愛知県に所在が確認されているブラジル人学校の現状を把握し、それぞれの教育課程（就学前、基礎、中等）に就学している子どもの人数を把握することを目的としている。

イ 調査期間

平成 30 年 5 月 1 日～平成 30 年 7 月 1 日

ウ 調査対象者

愛知県内に住所を有し、愛知県が所在の確認をしているブラジル人学校

エ 調査方法

平成 30 年 5 月 1 日以降から各学校を直接訪問し、ヒアリング調査を行った。

オ 実施状況

実施数 11 校／12 校 実施率 92%

昨年と同様に、平成 30 年 5 月から 7 月にかけて、県内に所在を確認しているブラジル人学校に伺いヒアリング調査を行った。

愛知県内には、各種学校の認可を受けている学校は、11 校中 4 校である。EAS（豊田校、豊橋校、碧南校）とカンティニーニョ学園である。

なおコレージオ・イ・クレシェ・サル・イ・ルーズ・アルファ・エドゥカシヨナルは学校の移転活動中のため、学校側の希望により書面による調査のみ行い、ヒアリング調査を行っていない。

（１）経営状況

A校：新入生はここ最近増えてきており、多くは新しくブラジルから来日した家族である。また、ブラジルから日本への移住を考えている人からの問合せもあった。

B校：教師の確保が困難である。ブラジルから採用、または日本でブラジル通信大学に通っている人を採用しているが、それでも人手不足である。

C校：日本語の授業時間を増やしたいと考えているが、月謝が 1 万円の値上がが必要となってしまう、保護者への負担が大きい。

D校：授業料の未払いが慢性的にあり、弁護士を通じ法的手段を講じている。

- E校：学校側の施設規模や人手不足により受け入れを行えず、学校に通えない「待ち」状態の子ども達がいる。
- F校：利益はすべて学校の経費に使われるため、現在は無給でほぼボランティアとして経営している状態である。
- G校：ブラジル政府から否認可であるため、帰国後に現地の学校に入学しようとしても拒否される可能性、または再試験などを行う必要があるかもしれない。
- H校：生徒が増えたため教室が足りず、現在は文化センターなどを借りているが費用が嵩む。新しい校舎を探して不動産へ出向いているが、払えそうにない賃貸料の案内ばかりであった。

（２）進学

- A校：日本の大学への進学希望者が少ない、進学希望者はブラジルかそれ以外の大学を希望する。基本的には進学ではなく就職を選ぶ方が多い。
- B校：生徒に対して進学についての講演を行っている。
奨学金や推薦については生徒の希望があった場合のみ日本語の先生に頼み各大学に問い合わせている。
- C校：親が派遣で働いているために多くのブラジル人生徒は進学に対するビジョンが薄い。兄弟で上の子が大学へ進学している子は進学意欲が強い。
- D校：ブラジルの大学への進学資金を貯めるために就職する生徒がいる。そこで進学を諦めてしまう者もいる。
- E校：ドロップアウトを防ぐためや意識改善のための講演などは親の参加を勧めている。
- F校：進路相談を2～3ヶ月に一度行っている。進学をできる限り勧めているがまず高校を卒業する子が少ない。未来へ明るいビジョンを持つ子が少ない。就労ができる年齢になると、アルバイトをして賃金を手にする方が勉強をするより魅力的に感じてドロップアウトしてしまう生徒が多く、親も結果がすぐに見えないと高い出費を抑えるため退学させてしまうことも多々ある。

（３）特別支援教育

- A校：普通クラスに通わせているが、試験についてはその生徒に合わせた内容で行う。
- B校：特別支援が必要な生徒は普通クラスに通わせながらも個別指導も行う。

- C校：親が検査を受けさせないため診断はされていないがそれらしい生徒はいる。
- D校：放課後には放課後デイサービスの「きらり」へ通わせている。
- E校：放課後デイサービスの「Onelife」を利用している。
- F校：重度の自閉症の生徒が無料の支援を受けるために日本の公立学校へ転入したが、言語の壁により状態が悪化した。
- G校：日本で発達障害と診断されたが、帰国後に再度検査を行ったら違ったというケースがあった。言語の壁や文化の違いで障害と診断されやすいのでは。
- H校：日本の保育園では障害が理由で受け入れてもらえなかった子や、うまく対応できず症状が悪化した生徒がいる。
- I校：検査の結果で特別支援教育が必要だと診断されたら、保健センターへ行くように伝えている。その後は基本的に日本の公立学校や養護学校に編入することがほとんどである。

（４）学齢超過

- A校：受け入れを以前は行っていたが、教師不足により取りやめた。
- B校：日本の大学へ通っている子が、ブラジルでの学士号の取得のため夜間の学齢超過クラスに通っている。
- C校：年齢超過者の受け入れは行っていないが、元々在学していた生徒で留年や帰国と来日を繰り返す関係で学齢超過の生徒もいる。
- D校：受け入れを行っており、今年も４人程から問合せを受けているが、クラスを開設するための最低人数（６～７名）に達していないため今年はまだクラスは開いていない。日本で育った者より、その殆どがブラジルで高校を卒業せず成人してから来日してきた者である。ブラジルの通信大学へ進学したいというのが主な入学理由である。

（５）健康診断

- A校：保護者へ渡している問診票は病院からすでにポルトガル語訳されたものを使っており、記入する際にわからないことがあれば学校側からもサポートしている。
- B校：学校独自で身長と体重測定は行っている。それ以外の検査は親へ連れて行くよう勧めている。
- C校：連携を取っているクリニックや病院で健康診断の内容を取り決め、そちら

へ検診を受けに連れて行くよう親へ伝達している。

D校：赤十字に問い合わせたが、現在はこのような支援を行っていないと伝えられた。他に問い合わせたクリニックでは1人3000円程度すると答えられたため、行っていない。

E校：健康診断の文化が根付いてない上、500円の費用が必要になるので嫌がる親がほとんどである。

F校：近くのクリニックを勧めて、費用は親が負担をし行っている。

（6）その他

A校：ブラジル国籍以外の生徒がいる。ブラジルと繋がりがなくとも、同じ外国人として気質が日本の保育園よりあったらしい。

B校：ほとんどのブラジル人学校は私立各種学校設置認可の基準を満たせない。規定が明瞭でなく、県内のほとんどのブラジル人学校の実状と異なるものであると感じる。

C校：消防署の方々が視察に来られてから年に2回連携を取って防災訓練を行っている。

D校：防災訓練のため消防署へ問い合わせたが、生徒数が少ないために断られたことがある。

参考資料

- 1、アンケート日本語版
- 2、アンケートポルトガル語版